

平成28年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年6月10日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
 コード番号 2929 URL http://www.pharmafoods.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祐
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部部长兼総務部部长 (氏名) 新谷 義信 TEL 075-394-8600
 四半期報告書提出予定日 平成28年6月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年7月期第3四半期の連結業績（平成27年8月1日～平成28年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年7月期第3四半期	2,526	—	△335	—	△277	—	△275	—
27年7月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 28年7月期第3四半期 △294百万円 (-%) 27年7月期第3四半期 一百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年7月期第3四半期	△9.50	—
27年7月期第3四半期	—	—

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年7月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年7月期第3四半期	4,300	3,196	74.0
27年7月期	—	—	—

(参考) 自己資本 28年7月期第3四半期 3,182百万円 27年7月期 一百万円

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年7月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年7月期	—	—	—	—	—
28年7月期	—	—	—	—	—
28年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年7月期の連結業績予想（平成27年8月1日～平成28年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	—	30	—	100	—	80	—	2.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 平成28年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
 新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－
 （注）特定子会社の異動には該当いたしません。第1四半期連結会計期間より、「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年7月期3Q	29,034,200株	27年7月期	29,034,200株
② 期末自己株式数	28年7月期3Q	－株	27年7月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年7月期3Q	29,034,200株	27年7月期3Q	28,954,213株

（注）当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって分割する株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は、第1四半期連結会計期間より「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を設立し、連結子会社としているため四半期連結財務諸表を作成しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融緩和政策の継続を背景に、企業の業績や雇用情勢が改善したものの、中国経済の減退や円高の影響等により先行き不透明な中で推移いたしました。

このような環境下において、当社は「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ(Pharma Foods)」を目指し、積極的な事業展開を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,526百万円となりました。利益面では、通信販売事業において将来を見据えた積極的な先行投資を上半期に集中して行い、広告宣伝費が先行発生しておりましたが、平成28年1月より単月での黒字化を継続的に達成し、当第3四半期連結会計期間では106百万円改善しており、営業損失は335百万円となりました。

この他、創薬事業等による補助金収入50百万円、為替差損11百万円等を計上した結果、経常損失は277百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は275百万円となりました。

(注) 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

各セグメントの業績の概要は、次のとおりです。

<機能性素材事業>

機能性素材事業では、当社の根幹事業である機能性素材の開発、販売及び機能性素材を配合したOEM(original equipment manufacturer)製品の企画、販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間では、引き続き「GABA(ギャバ)」の展開に注力してまいりました。国内では昨年4月より開始されている「機能性表示食品制度」への取り組みを積極的に進めており、多くの食品メーカー・飲料メーカーからお問い合わせを頂いております。

その結果、複数のメーカーにおいて、「GABA」の「ストレス」「疲労感」「血圧」の効果について、機能性表示の届出がされており、今期末から来期にかけて、順次、新製品の発売が開始されてまいります。

海外では、中国において前期より複数の世界的な大手メーカーと「GABA」の取引を開始しております。今期に入りましても引き続き積極的な営業展開を行ってきた結果、大口の受注を継続して獲得しており、大幅に売上を伸ばしております。

この他、機能性素材製品として、卵黄由来ペプチド「ボーンペップ」、当社の根幹技術による「鶏卵抗体(オボプロン)」、葉酸を高含有した「葉酸たまご」、卵白由来ペプチド「ランペップ」、ヒアルロン酸産生促進素材「iHA(アイハ)」等の各素材を販売しております。

開発面においては、新規育毛活性成分「HGP(Hair Growth Peptide)」を株式会社シャルレと共同開発し、その成果を日本農芸化学会にて共同発表いたしました。

この他、発酵青バナナ末由来の「バナファイン」の事業化を推進し、鶏軟骨由来のヒアルロン酸産生促進素材「HAS-II(ハス・ツー)」、卵白由来の筋力低下抑制素材「サルコペップ」、酵母由来の美白素材「セレプロン」等の開発を進めております。

OEM製品の販売では、サプリメントメーカーや製薬メーカーへ向けて、積極的な営業展開を行っております。この他、流通業等への積極的な営業展開を進めてまいりました。

これらの結果、機能性素材事業の売上高は914百万円、セグメント利益178百万円となりました。

<通信販売事業>

通信販売事業では、将来を見据え引き続き積極的な広告展開を行ってまいりました。

主力製品である膝関節用サプリメント「タマゴサミン」が引き続き好調に売上を伸ばしている他、「sognando(ソニヤンド)」ブランドとして販売の「珠肌石鹸(たまはだせっけん)」、活性卵殻膜を配合した美肌クリーム「珠肌のうみつ」等も寄与し、売上高は当初予想を大きく上回っております。

昨年8月には、コールセンター業務を行う新会社「株式会社ファーマフーズコミュニケーション」を福岡県に設立し、コールセンター機能の拡充を展開しており、顧客獲得の強化を行ってまいりました。

その結果、通信販売事業の売上高は1,581百万円、セグメント損失415百万円となりました。

利益面では、積極的な先行投資を上半期に集中して行い、広告宣伝費が先行発生しておりましたが、平成28年1月より単月での黒字化を継続して達成しており、通信販売事業単体での増収と黒字化を見込んでおります。

＜バイオメディカル事業＞

バイオメディカル事業では、創薬事業、医薬品・診断薬開発目的のための抗体受託作製事業及び各素材・製品等に関して分析・効能評価試験を行うLSI(Life Science Information)事業を行っております。

創薬事業では、独自のニワトリ抗体作製技術「ALAgene®(アラジン・Avian Lead Antibody GENE)」を用いて、新規抗体医薬を創製する「関節リウマチプロジェクト」及び「悪性腫瘍プロジェクト」に注力しております。「悪性腫瘍プロジェクト」の研究成果は、昨年10月に開催された日本癌学会ばかりでなく、本年4月米国癌学会(AACR)でも発表し、大きな注目を集めました。また、本年1月からは国立がん研究センターとの共同研究として進めており、研究開発を加速しております。

各プロジェクトとも研究開発・事業化が順調に進んでおり、特に「悪性腫瘍プロジェクト」については、国内外の複数の製薬企業との間でMTA(薬効確認のための試験薬供給契約)を締結し、各製薬企業で評価が進められています。現在、薬効を確認した製薬企業から順に導出契約(ライセンスアウト)を含めた提携の協議をしており、今期中の契約締結を目指しております。

当第3四半期連結累計期間においては、抗体受託作製業務及びLSI事業の収入等により、バイオメディカル事業の売上高は30百万円、研究開発費の計上等により、セグメント損失97百万円となりました。

＜参考情報：前年同期との売上高比較＞

	前期 (H26/8～H27/4)	当期 (H27/8～H28/4)	増減率
機能性素材事業	784百万円	914百万円	+16.6%
通信販売事業	520百万円	1,581百万円	+203.6%
バイオメディカル事業	43百万円	30百万円	△29.8%
合計	1,348百万円	2,526百万円	+87.3%

(注)前期は四半期連結財務諸表を作成していないため、当社単体での実績を記載しております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の内容

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、4,300百万円となりました。

流動資産は3,019百万円となり、主な内訳は現金及び預金が2,011百万円、受取手形及び売掛金が564百万円となっております。

固定資産は1,280百万円となり、主な内訳は有形固定資産が728百万円、関係会社長期貸付金が171百万円となっております。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、1,103百万円となりました。

流動負債は600百万円となり、主な内訳は支払手形及び買掛金が136百万円、未払金が142百万円、1年内返済予定の長期借入金が199百万円となっております。

固定負債は502百万円となり、主な内訳は長期借入金476百万円となっております。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,196百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年7月期の通期の連結業績予想につきましては、売上高3,400百万円、営業利益30百万円、経常利益100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益80百万円を見込んでおります。詳細につきましては、平成28年6月8日に開示しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参考ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
特定子会社の異動には該当いたしません。第1四半期連結会計期間より、株式会社ファーマフーズコミュニケーションを設立したため、連結の範囲に含めております。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は平成26年7月期より継続して、営業損失および営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。当該事象により平成27年9月11日発表の決算短信において継続企業の前提に関する重要事象等の記載を行っております。

この要因は平成24年8月より通信販売事業及び平成25年9月より創薬事業を本格的に開始したことにより、将来を見据えた先行投資を、特に通信販売事業において積極的に行って来たことによるものです。

現時点では損失が継続していますが、各事業とも進展しており、通信販売事業では先行投資の結果、収益基盤となる顧客数は大幅に伸長し、期初の計画を上回るペースで進行しております。今後は効率の良い広告宣伝投資を継続するとともに、これまでに獲得した既存顧客へのフォローを強化していくことで、収支の改善が見込まれます。

また従来からの主力事業である機能性素材事業でも、国内及び海外での営業展開を積極的に行ってきた結果、売上は伸長しており、今後も更なる拡大を見込んでおります。

当社の財政状態は平成28年4月末時点で自己資本比率74.0%、手元資金2,011百万円を有しており、事業を継続するための十分な資金を確保し、安全性を維持しております。

昨年8月には、通信販売事業の拡大に備えた資金調達を借入により実行しており、各金融機関から中長期間にわたる資金を十分な条件で調達できております。

これらのことより、当第3四半期連結会計期間末において、継続企業の前提に関する重要事象は無いものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成28年4月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,011,847
受取手形及び売掛金	564,977
商品及び製品	276,323
仕掛品	16,044
原材料及び貯蔵品	38,830
その他	115,429
貸倒引当金	△3,748
流動資産合計	3,019,703
固定資産	
有形固定資産	
建物	427,341
構築物	26,471
車両運搬具	17,173
工具、器具及び備品	244,832
土地	387,863
リース資産	19,698
建設仮勘定	2,160
減価償却累計額	△396,590
有形固定資産合計	728,950
無形固定資産	
のれん	1,508
その他	22,257
無形固定資産合計	23,766
投資その他の資産	
関係会社長期貸付金	171,156
その他	358,829
貸倒引当金	△1,761
投資その他の資産合計	528,224
固定資産合計	1,280,942
資産合計	4,300,645

(単位:千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成28年4月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	136,022
短期借入金	50,000
未払金	142,976
未払費用	43,493
未払法人税等	9,523
1年内返済予定の長期借入金	199,464
その他	19,395
流動負債合計	600,875
固定負債	
長期借入金	476,083
退職給付に係る負債	2,951
その他	23,921
固定負債合計	502,956
負債合計	1,103,831
純資産の部	
株主資本	
資本金	2,031,278
資本剰余金	1,881,982
利益剰余金	△757,256
株主資本合計	3,156,004
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	30,226
為替換算調整勘定	△3,604
その他の包括利益累計額合計	26,621
新株予約権	11,022
非支配株主持分	3,165
純資産合計	3,196,813
負債純資産合計	4,300,645

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)
売上高	2,526,280
売上原価	732,118
売上総利益	1,794,161
販売費及び一般管理費	
研究開発費	238,157
広告宣伝費	1,130,082
支払手数料	373,084
のれん償却額	502
その他	387,763
販売費及び一般管理費合計	2,129,590
営業損失(△)	△335,428
営業外収益	
受取利息	8,265
受取配当金	1,723
補助金収入	50,767
持分法による投資利益	8,151
その他	10,599
営業外収益合計	79,506
営業外費用	
支払利息	3,297
為替差損	11,991
その他	6,057
営業外費用合計	21,346
経常損失(△)	△277,269
特別利益	
新株予約権戻入益	2,135
投資有価証券売却益	2,153
特別利益合計	4,288
税金等調整前四半期純損失(△)	△272,980
法人税等	2,286
四半期純損失(△)	△275,267
非支配株主に帰属する四半期純利益	665
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△275,932

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成28年4月30日)
四半期純損失(△)	△275,267
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△11,842
為替換算調整勘定	△7,878
その他の包括利益合計	△19,720
四半期包括利益	△294,987
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△295,653
非支配株主に係る四半期包括利益	665

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成28年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計(注)
	機能性素材事業	通信販売事業	バイオメディカル事業	
売上高				
外部顧客への売上高	914,596	1,581,110	30,573	2,526,280
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	914,596	1,581,110	30,573	2,526,280
セグメント利益又は損失(△)	178,287	△415,913	△97,802	△335,428

(注) セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。